

8
2017

三重病院

ニュースレター

news letter vol.216

01 知っておきたい外来生物についての知識

天まで届け!七夕風船リリース
[寄贈]「わかあゆの歌」

02 食中毒予防～お弁当&BBQ編
ヨーロッパアレルギー学会に参加して

三重病院のサラメシ^⑭

03 5病棟の生活のひとコマ^⑳
「やまばとギャラリー」情報コーナー
異動のごあいさつ / 医療安全川柳〈8月〉

04 第2回 三重病院公開糖尿病教室
外来からのお知らせ / 外来診察のご案内

知っておきたい外来生物についての知識



図:ヒアリ(環境省「ストップ・ザ・ヒアリ」より)

これまで日本にはいないとされていたヒアリが平成29年5月26日に兵庫県尼崎市で日本で初めて発見されました。これは中国・広東省広州市の南沙港から出航した貨物船内のコンテナの内部で発見されたものです。もちろんすぐに退治されましたが、その後神戸市ポートアイランドのコンテナヤード、愛知県弥富市鍋田埠頭でコンテナ上部から、大阪市住之江区内の倉庫に搬入されたコンテナより発見されています。いずれも即座に防除されて、その後も調査は継続されていますが、1995年に日本で初めての侵入が確認されたセアカゴケグモは現在では三重県内でも多数確認されています。現代のグローバル化した世の中では世界はすべてつながっていますし、少なくとも人類以外の動物にとっては国境などは存在しませんので、今後いろいろな外来生物が入ってくる可能性があります。本日はヒアリとセアカゴケグモについて勉強してみたいと思います。

ヒアリは、漢字で「火蟻」と書きますが、刺されると火傷のような激しい痛みを生じることからこの名があります。もともと南米の中部原産ですが、すでに世界では北米やカリブ海諸国、オーストラリア、ニュージーランド、中国、マレーシア、フィリピン、台湾等にも外来生物として侵入・定着しています。刺された症状が強いことより、世界各地で大きな問題となっています。

ヒアリは、体長は2.5～6.0mm程度、体色は主に赤茶色でおしりの部分が黒い有毒のアリです(図)。農耕地や公園など開放的な地面、草地に土で盛り上がったアリ塚を作って住みます。極めて攻撃性が強く、特に夏場は攻撃性が高いとされており、おしりにある毒針で刺された際には、熱感を伴う非常に激しい痛みを覚え、1時間程度で小さな腫れ、12時間以内に膿疱状に腫れ、その後、17～56%の方で24～72時間続く大きな紅斑を生じます。局所反応には一般に冷やすことと鎮痛剤が使われます。効果についての十分なエビデンスはありませんが、抗ヒスタミン、ステロイドの局所塗布も行われます。さらに毒に含まれる成分に対してアレルギー反応を引き起こす例があり、局所的、または全身にかゆみを伴う発疹(じんましん)が出現したり、重度の場合にはアナフィラキシー症例も報告されています。これまでのところわかっている限りでは、アナフィラキシーの頻

度は7%とされています。ヒアリの毒には、アルカロイド毒であるゾレノブシン(2-メチル-6-アルキル ビペリジン)のほか、ハチ毒との共通成分であるホスホリパーゼやヒアルロニダーゼなどが含まれています。そのため、ヒアリに刺された経験がなくてもハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要です。ヒアリに刺された方がアナフィラキシー症状を引き起こした場合、アドレナリンを注射するなどの適切な救急処置をとる必要があります。

セアカゴケグモは、もともとオーストラリア大陸出身ですが、日本に侵入後も西日本を中心に分布地が広がり、すでに三重県でも各地で発見されており、津市、鈴鹿市など多くの市町村ではホームページに注意喚起が掲載されています。ゴケグモ類の上顎には毒腺とつながった牙があり、神経毒である α -ラトロトキシンが含まれており、本来は獲物に注入して麻酔して捕らえるためのものですが、ヒトが噛まれた場合には、発赤、疼痛、腫脹、しびれで発症し、ひどい場合には、5～60分で強い痛みが始まり、その強さと範囲が増大していきます。所属リンパ節まで痛みが広がったり、胸部痛や腹部痛に進展する場合もあり、悪心、嘔吐、発汗、倦怠感、発熱など全身症状をきたすこともあります。オーストラリアでは噛まれたヒトの20%程度で強い症状が出ると言われており、特に小児、高齢者では重症になるリスクが高いとされています。重症化した場合には抗毒素による治療が必要になります。AMEDの研究班によると我が国における近年のセアカゴケグモ咬傷において、大規模病院を受診した咬傷患者の約3分の1が全身症状を呈し、そのような患者に対して抗毒素が投与され、症状の改善が認められたことが報告されています。セアカゴケグモは本来はおとなしいクモなので、いきなり素手でつかむなどをしなければ攻撃してくることはありませんが、庭に置かれたサンダルや長靴を履いたとき、庭の手入れの時などに咬まれたヒトが多いため、市町村からの情報を参考にしてください。ヒアリやセアカゴケグモを見つけたときには、いずれも刺されたり咬まれたりしないようにして、地方環境事務所や市町村の窓口にご相談してください。(臨床研究部長 谷口 清州)